

認証制度WGにおける進捗の報告

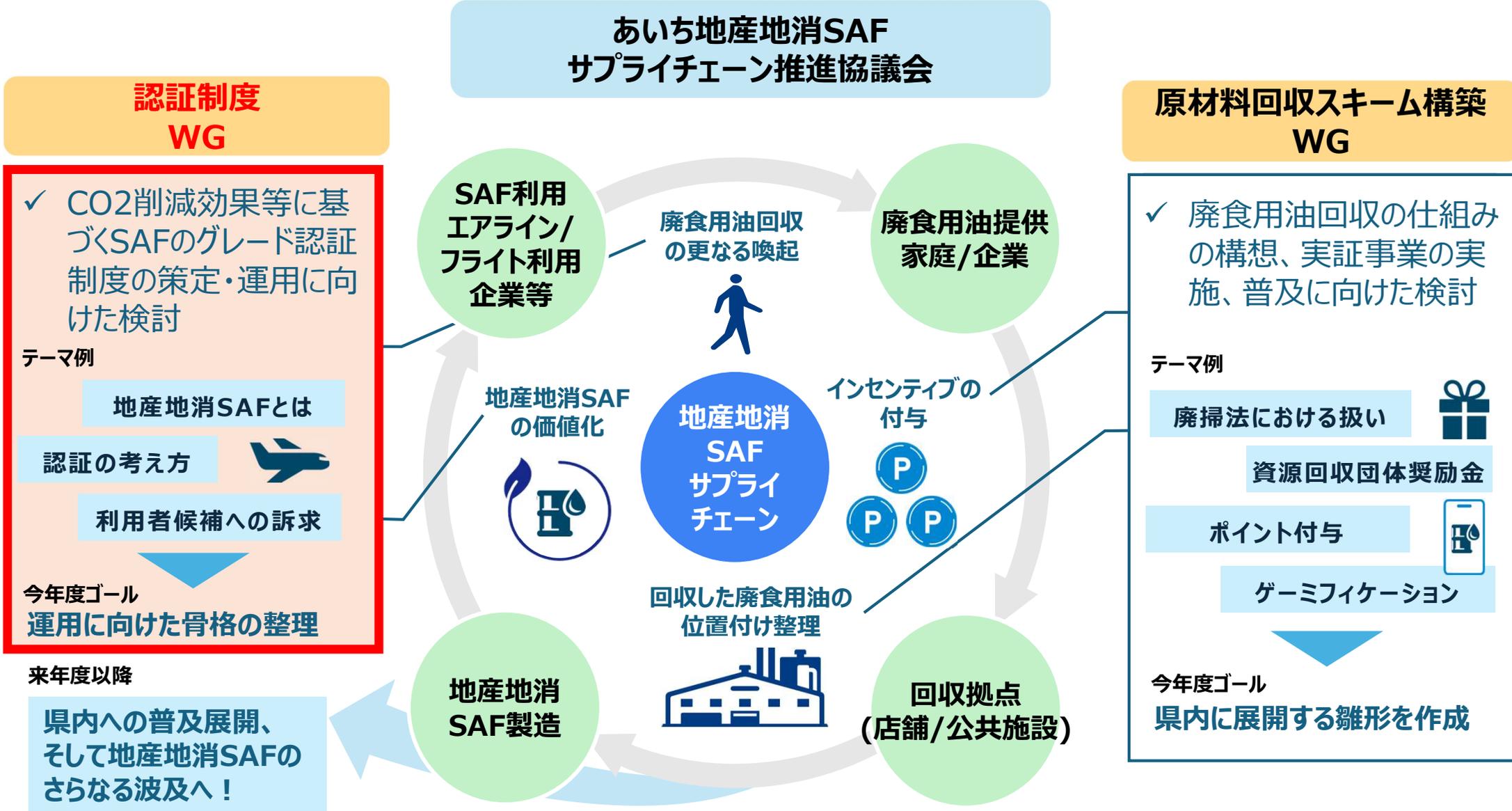


2026年2月

愛知県経済産業局
次世代モビリティ産業課

あいち地産地消SAFサプライチェーン推進協議会の活動全体像・目指す姿

- 本推進協議会の活動の全体像は以下のとおり。プロジェクト提案企業である、株式会社レポインターナショナル、株式会社NTTデータとともに、以下に示す姿を目指していく。



■ 認証制度WGの目的

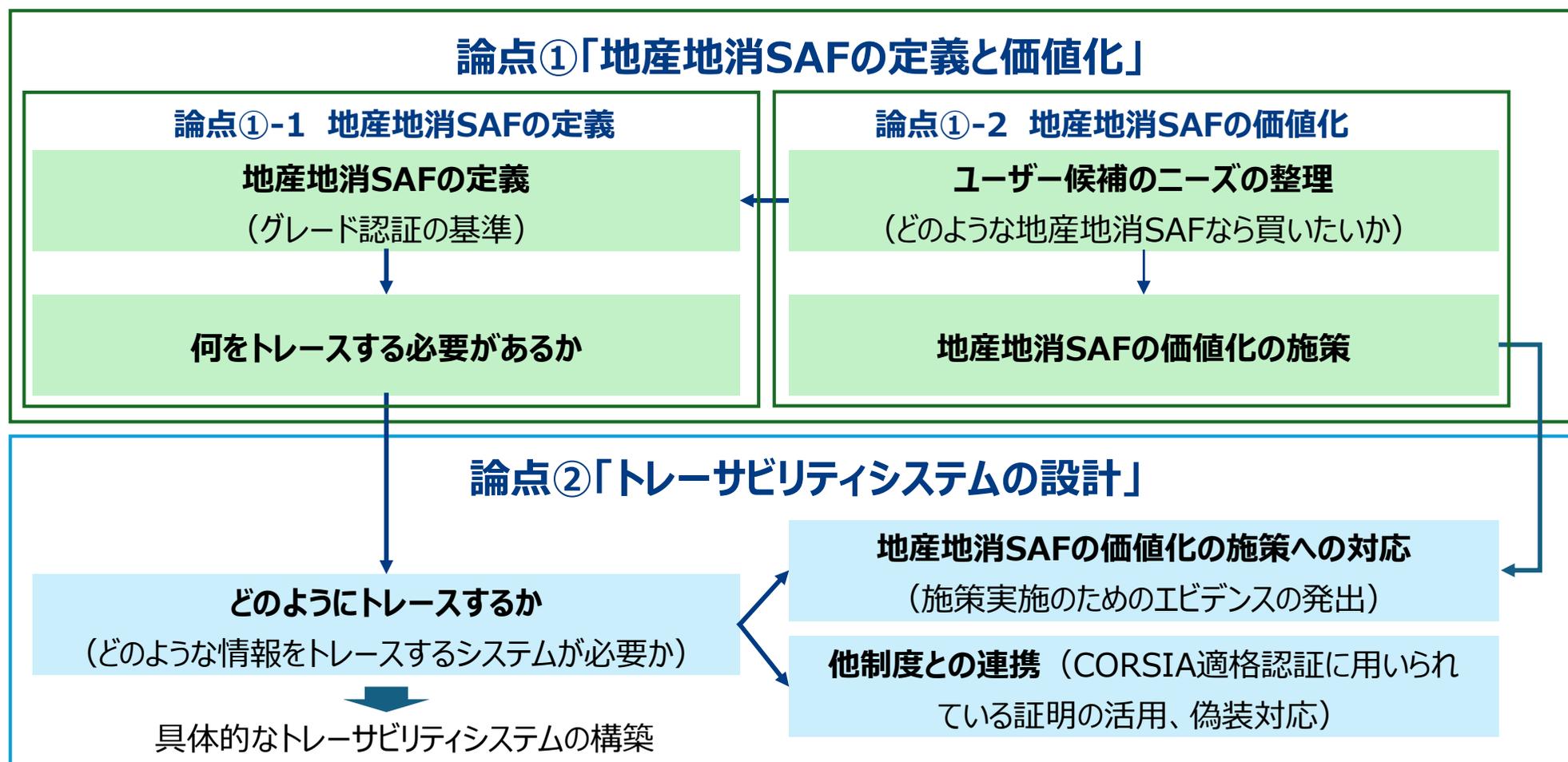
- ✓ CO2削減効果等に基づくSAFのグレード認証の策定・運用に向け、地産地消SAFの定義、グレード認証の考え方、地産地消SAFの利用者候補への価値の訴求について検討する。
- ✓ SAFが地産地消であることを証明し、グレード認証を行うために必要となる、トレーサビリティシステムについて、要件の整理や実証計画の策定を行う。

■ 認証制度WG実施概要

- ✓ 全3回開催：第1回 10月2日、第2回 10月28日、第3回 1月7日
- ✓ 参加メンバー：レボインターナショナル、NTTデータ、みずほ銀行、ClassNK SCS（敬称略）

検討事項の全体像について

- 地産地消SAFのグレード認証は、地産地消に関する一定の基準を満たすSAFに認証を与え、各種施策により、その利用を推進することを目的としている。
- 地産地消に関する一定の基準を定めるためには、「地産地消SAFとは何か（定義）」を紐解くことが必要である（論点①-1）。また、地産地消SAFの利用をどのような施策で推進できるかを検討する必要がある（論点①-2）。
- 「地産地消SAFとは何か（定義）」を設定することで、トレーサビリティシステムにおいて、どのような情報をトレースすべきかも明らかにできる。これらを踏まえ、トレーサビリティシステムの要件を定義、設計を進めていく。（論点②）

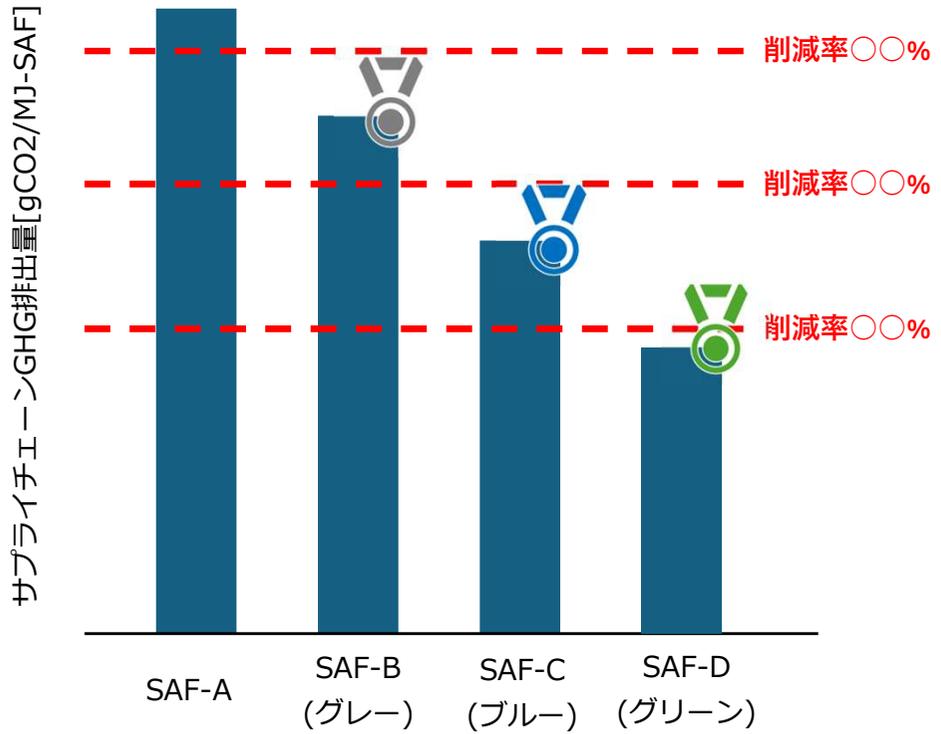


論点①-1 地産地消SAFの定義

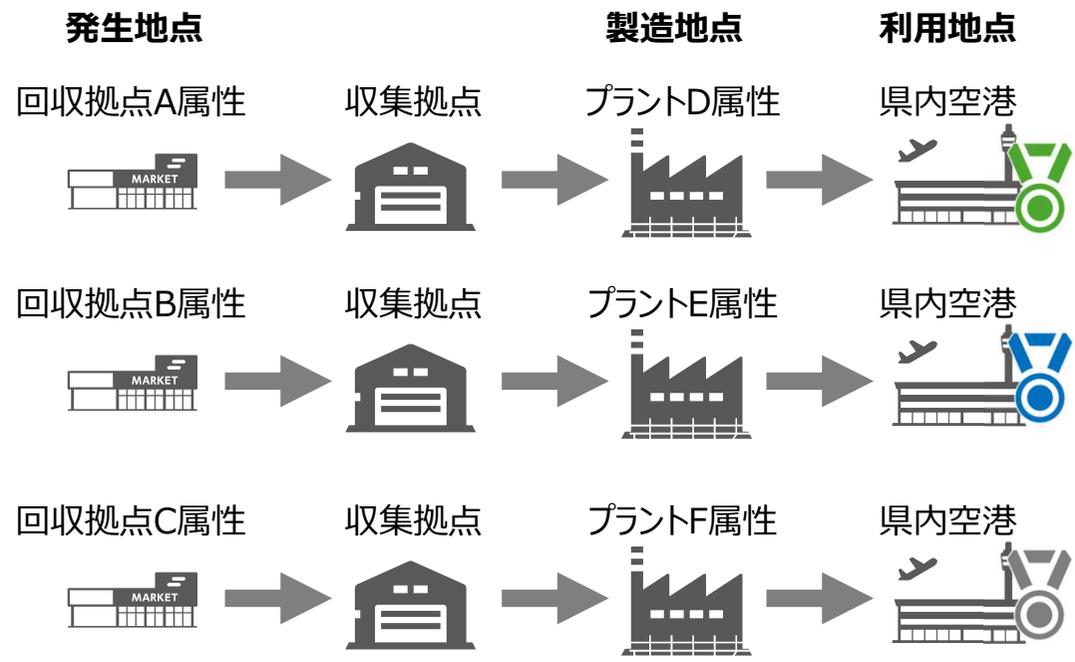
論点①-1 地産地消SAFの定義（地産地消SAFとは何か）

- 地産地消SAFのグレード認証は、地産地消に関する「一定の基準」を満たすSAFに認証を与えることを想定する。基準の設定のため、地産地消SAFとは何か（地産地消SAFの定義）を以下の二通り検討した。
 - ✓ **GHG排出量により定義する**（例として収集からSAF製造、給油に至るまでのGHG排出量の基準値を設ける）
 - ✓ **廃食用油原料の発生地点・製造地点・利用地点で定義する**（例として発生場所・利用場所を県内とする）

GHG排出量による地産地消SAFの定義のイメージ



発生地点・製造地点・利用地点による地産地消SAFの定義のイメージ

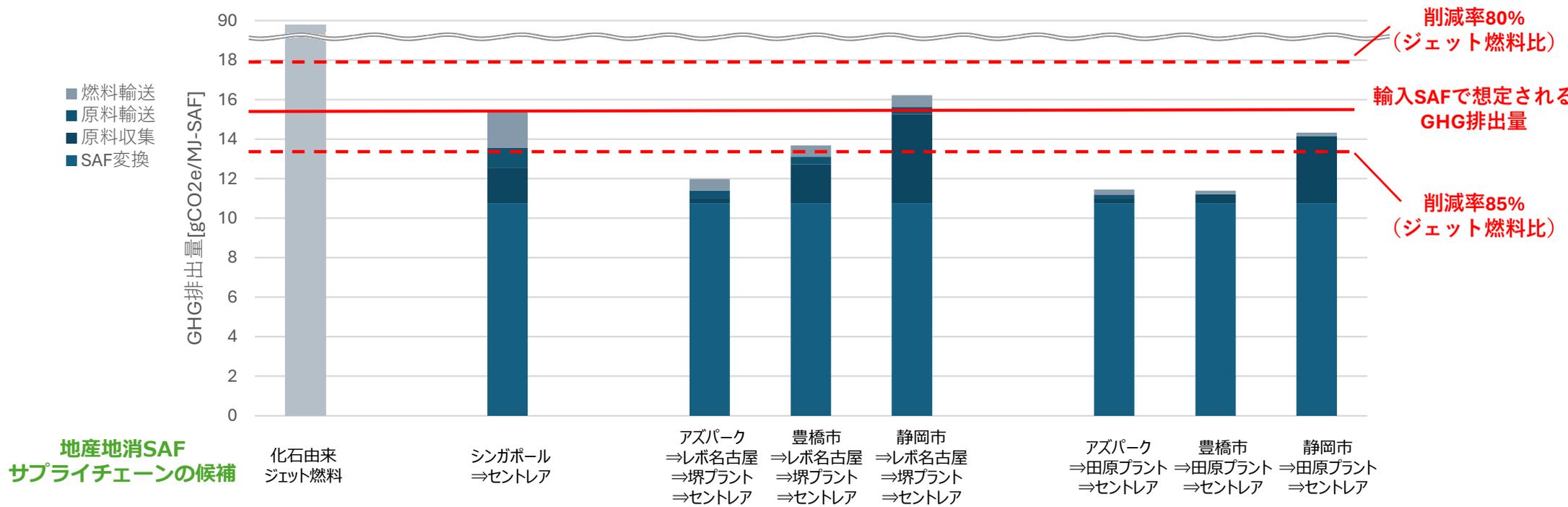


論点①-1 地産地消SAFの定義の検討

■ **GHG排出量により定義する場合**を想定し、地産地消SAFの候補となるサプライチェーンのGHG排出量について計算を行った結果を下図に記す。計算の結果、以下が観察される。

- ✓ 化石由来ジェット燃料に対するGHG排出量の削減率は、80%~85%のレンジである。
- ✓ 長距離輸送を伴う場合は、地産地消であっても輸入SAFと同等の排出量となる可能性がある。

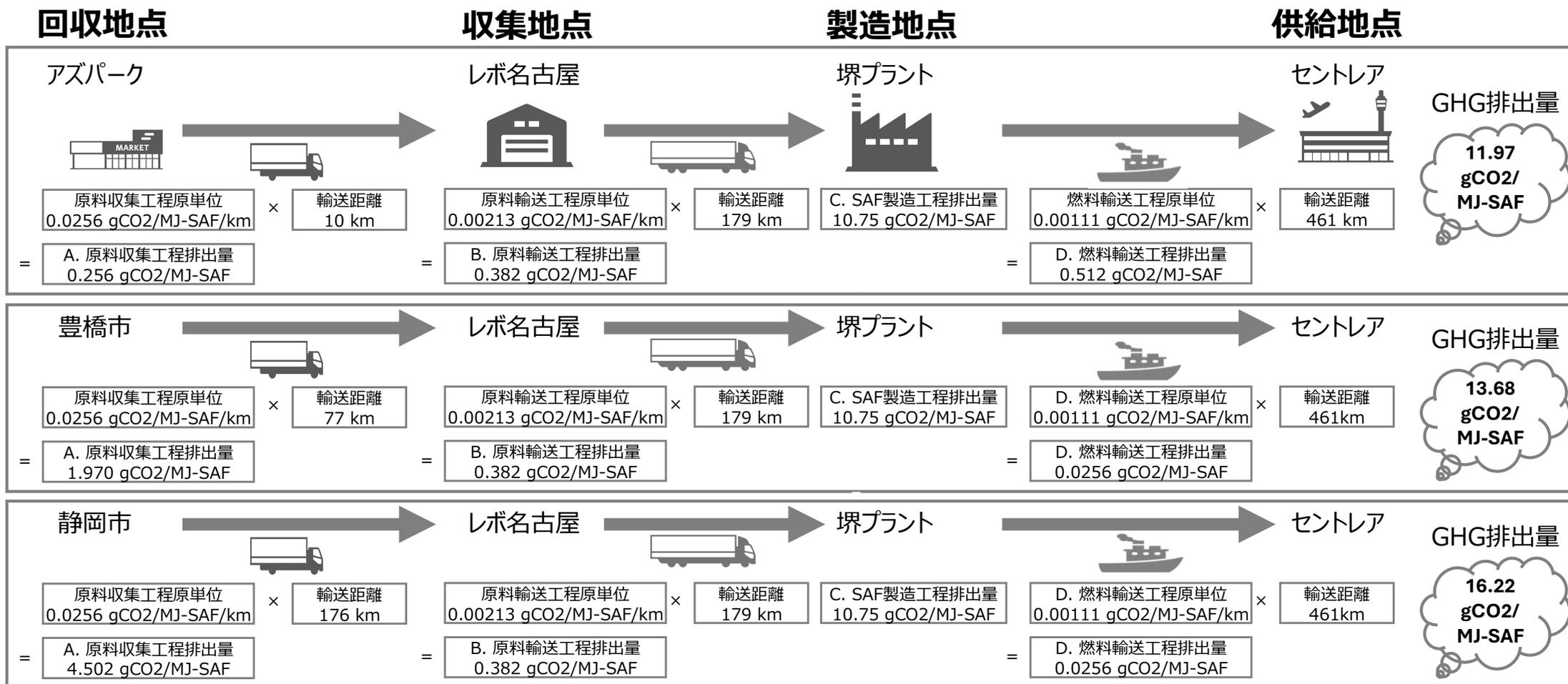
地産地消SAFの候補となるサプライチェーンのGHG排出量[g-CO2/MJ-SAF]



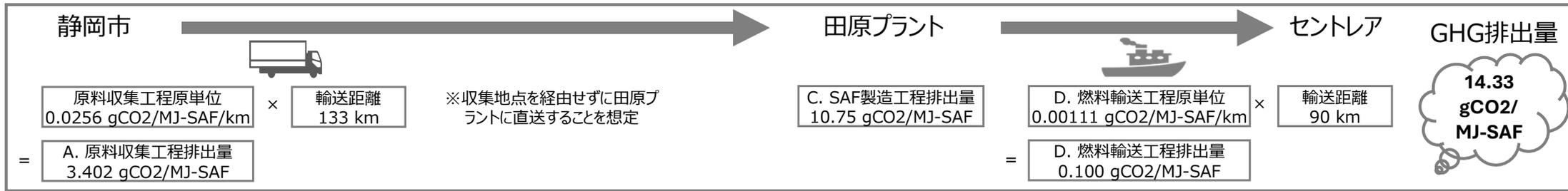
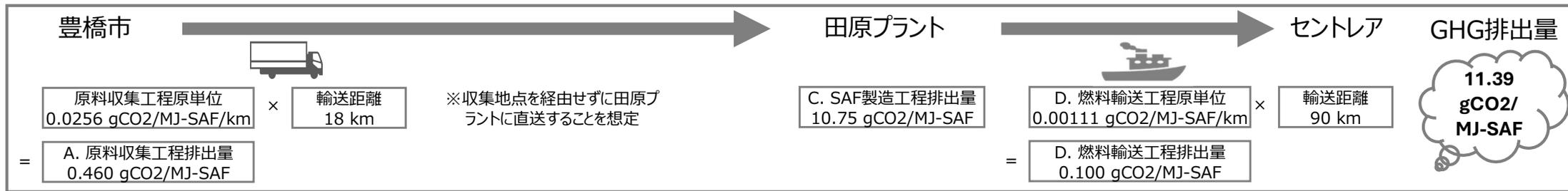
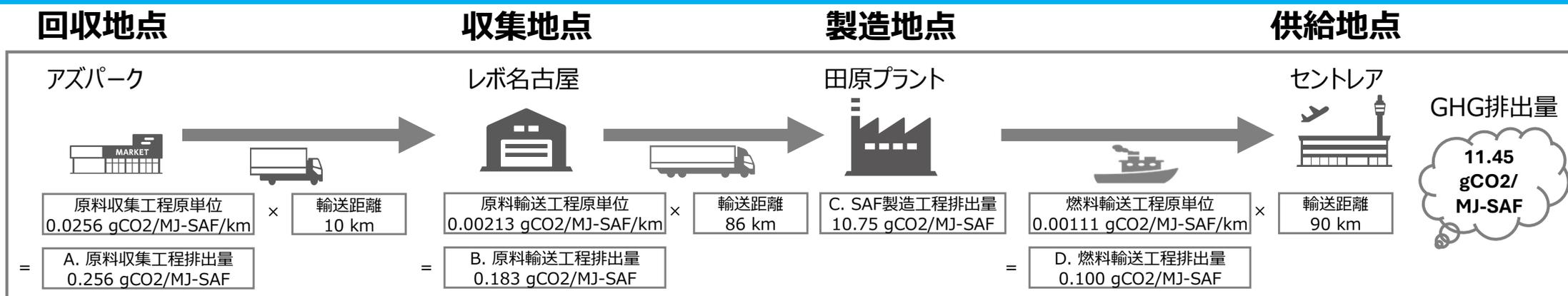
■ グレード認証において定める地産地消SAFの基準については上記に留意しつつ設定する必要がある。なお、排出量全体の中では、SAF変換工程の排出が大きく、**レボインターナショナルのCO2排出量の少ない変換技術に期待が持たれる。**

【参考】地産地消SAFの候補となるサプライチェーンのGHG排出量 計算過程

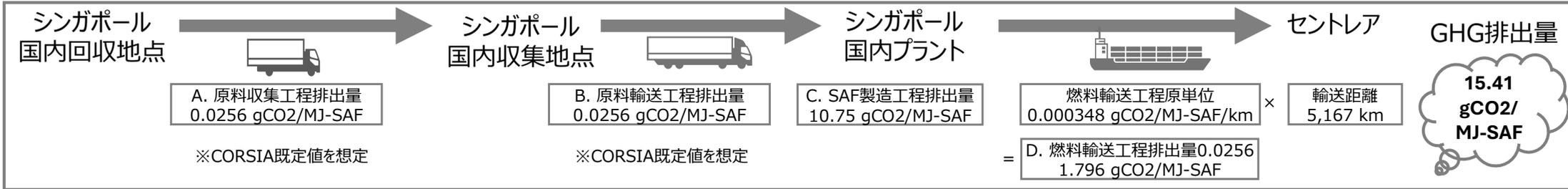
- 以下に示す通り、サプライチェーンのGHG排出量は、「A.原料収集工程」、「B.原料輸送工程」、「C.SAF製造工程」、「D.燃料輸送工程」の排出量を合計することで算出される。
 - ✓ 輸送工程の排出量 (A,B,D) は、「排出原単位 (距離あたりの排出量)」×「輸送距離」で算出される。
 - ✓ C. SAF製造工程の排出量は、サプライチェーンに寄らず一定の値を用いた。



【参考】地産地消SAFの候補となるサプライチェーンのGHG排出量 計算過程



※輸入SAFのGHG排出量



【参考】地産地消SAFの候補となるサプライチェーンのGHG排出量 計算過程

- 以下に示す通り、輸送工程の排出原単位は、各輸送手段の燃費や、輸送距離（発生地点・製造地点・利用地点）、輸送対象の発熱量を特定することで計算することが可能である。

A. 原料収集工程排出原単位

項目	値	単位	備考
① 往復燃費（2トントラック）	9.72	MJ-軽油/tkm	改良トンキロ法より積載率60%として算出
② 軽油排出係数（メタン・N2O含む）	95.1	gCO2eq/MJ-軽油	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
③ UCO発熱量	37,000	MJ-UCO/t	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
④ HEFA生産量あたり必要なUCO（HVOの数値で代替）	1.023852	MJ-UCO/MJ-HVO	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
⑤ HEFA生産量あたりの排出原単位	0.0256	gCO2eq/km/MJ-HEFA	= ①×②×④／③

B. 原料輸送工程排出原単位

項目	値	単位	備考
① 往復燃費（40トントラック）	0.81	MJ-軽油/tkm	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
② 軽油排出係数（メタン・N2O含む）	95.1	gCO2eq/MJ-軽油	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
③ UCO発熱量	37,000	MJ-UCO/t	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
④ HEFA生産量あたり必要なUCO（HVOの数値で代替）	1.023852	MJ-UCO/MJ-HVO	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
⑤ HEFA生産量あたりの排出原単位	0.00213	gCO2eq/km/MJ-HEFA	= ①×②×④／③

D. 燃料輸送工程排出原単位（内航船）

項目	値	単位	備考
① 往復燃費（内航船）	0.504	MJ-重油/tkm	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
② 重油排出係数（メタン・N2O含む）	94.2	gCO2eq/MJ-重油	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
③ HEFA発熱量	42,800	MJ-HEFA/t	ASTM D7566 Table1 Part 1より化石由来ジェット燃料の最低発熱量を参照
④ HEFA生産量あたりの排出原単位	0.00111	gCO2eq/km/MJ-HEFA	= (①×②) / ③

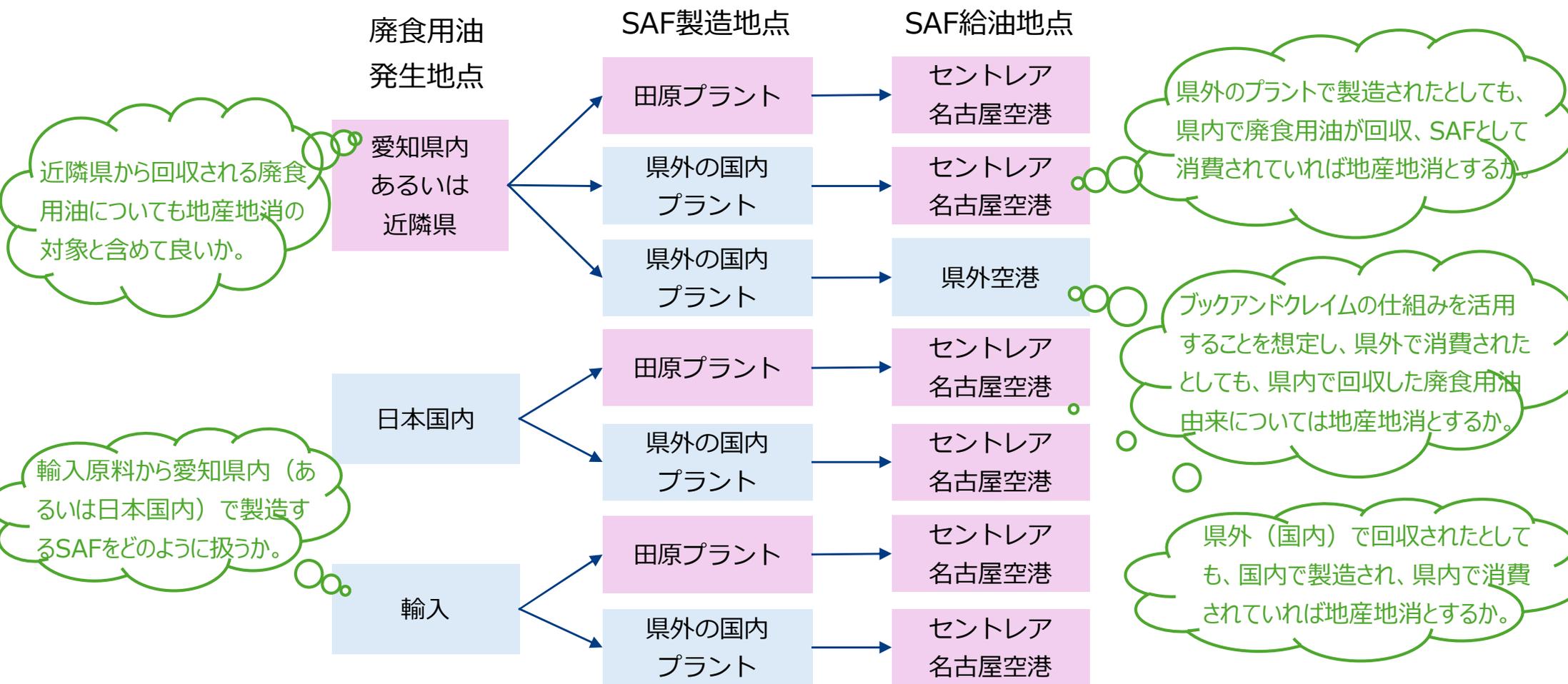
D. 燃料輸送工程排出原単位（ケミカルタンカー）

項目	値	単位	備考
① 往復燃費（Product tanker (15,000 t payload)）	0.158	MJ-重油/tkm	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
② 重油排出係数（メタン・N2O含む）	94.2	gCO2eq/MJ-重油	JRC(2017) Definition of input data to assess GHG default emissions from biofuels in EU legislation
③ HEFA発熱量	42,800	MJ-HEFA/t	ASTM D7566 Table1 Part 1より化石由来ジェット燃料の最低発熱量を参照
④ HEFA生産量あたりの排出原単位	0.000348	gCO2eq/km/MJ-HEFA	= (①×②) / ③

論点①-1 地産地消SAFの定義の検討

- 廃食用油原料の発生地点・製造地点・利用地点で定義する場合の、地産地消SAFの対象範囲の候補について検討したところ、以下のとおり。
- 吹き出しに記載のように、様々な検討課題が想定され、グレード認証において定める地産地消SAFの定義は、これらに留意しながら検討する必要がある。

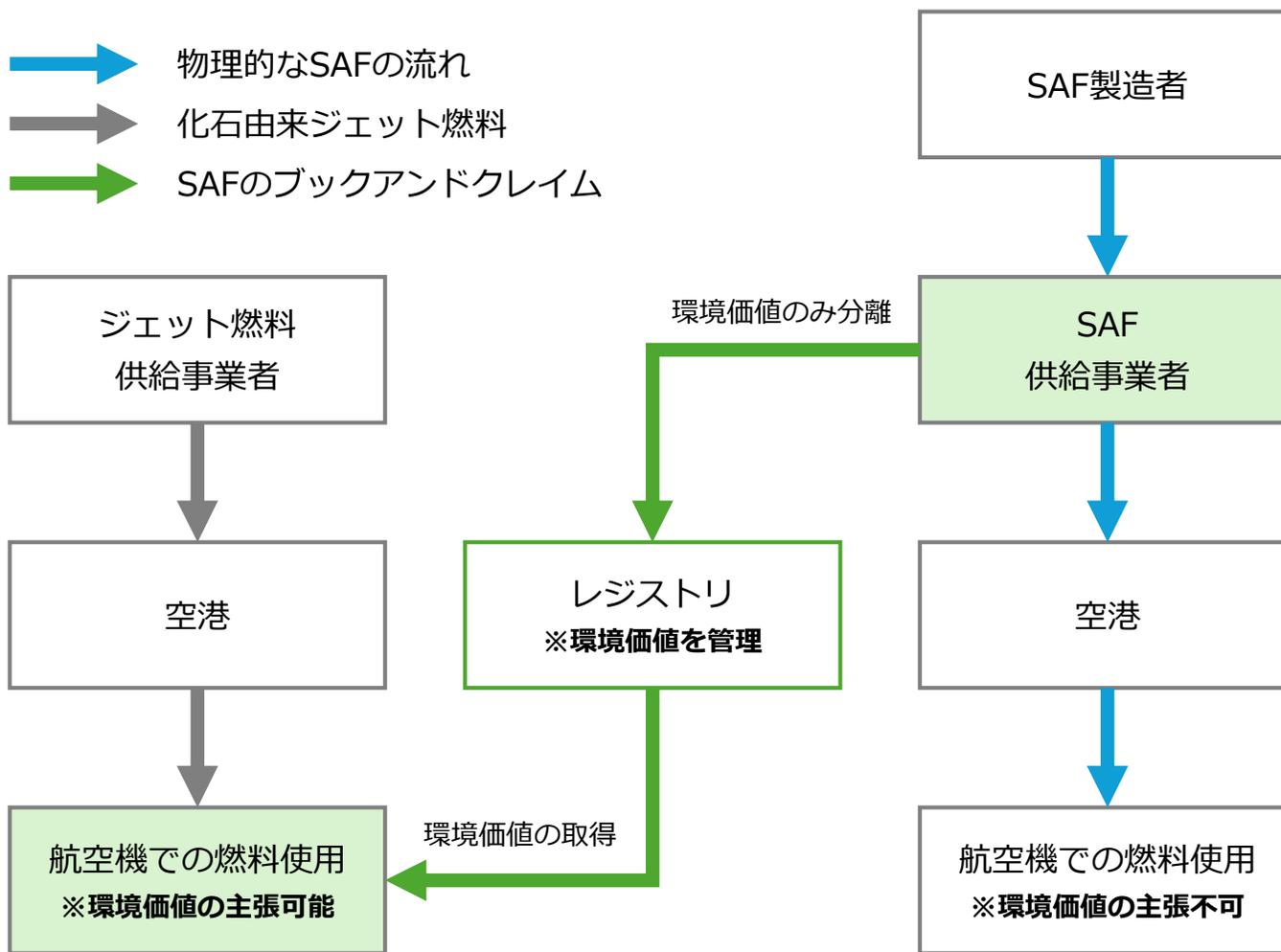
地産地消SAFとなる発生地点・製造地点・利用地点の候補



【参考】ブックアンドクレイムとは

- ブックアンドクレイムとは、**製品やサービスの物理的な流れと、それに紐づく環境価値（GHG削減量や属性情報）を分離し、環境価値のみを第三者が主張できるようにする仕組み**である。
- 環境価値の発行・移転・償却をレジストリにより管理することで、環境価値の二重計上を防止しつつ、利用者による主張が可能となる。

ブックアンドクレイムの仕組み



【地産地消SAFの定義】

- 検討の結果、**今年度は地産地消SAFの定義（対象範囲）は定めず**、来年度以降実施する実証等も踏まえ、**県内空港での利用に留意しつつ、検討を継続するもの**としたい。
- なお、地産地消SAFについては、別途、**国が公表する文書にも言及**があり、**今後、国との連携も進めていくもの**としたい。

【何をトレースする必要があるか】

- 前述のサプライチェーンのGHG排出量の試算や、発生地点・製造地点・利用地点での定義の整理を踏まえると、以下についてトレースする必要があることが示された。
 - ✓ **GHG排出量により定義する場合：位置情報（発生地点・製造地点・利用地点）、輸送距離、輸送手段（燃費）**
 - ✓ **廃食用油原料の発生地点・製造地点・利用地点で定義する場合：位置情報（発生地点・製造地点・利用地点）**
- これらをどのようにトレースするのかについては、後述のトレーサビリティシステムの実証において検討する。

論点①-2 地産地消SAFの価値化

論点①-2 地産地消SAFの価値化について

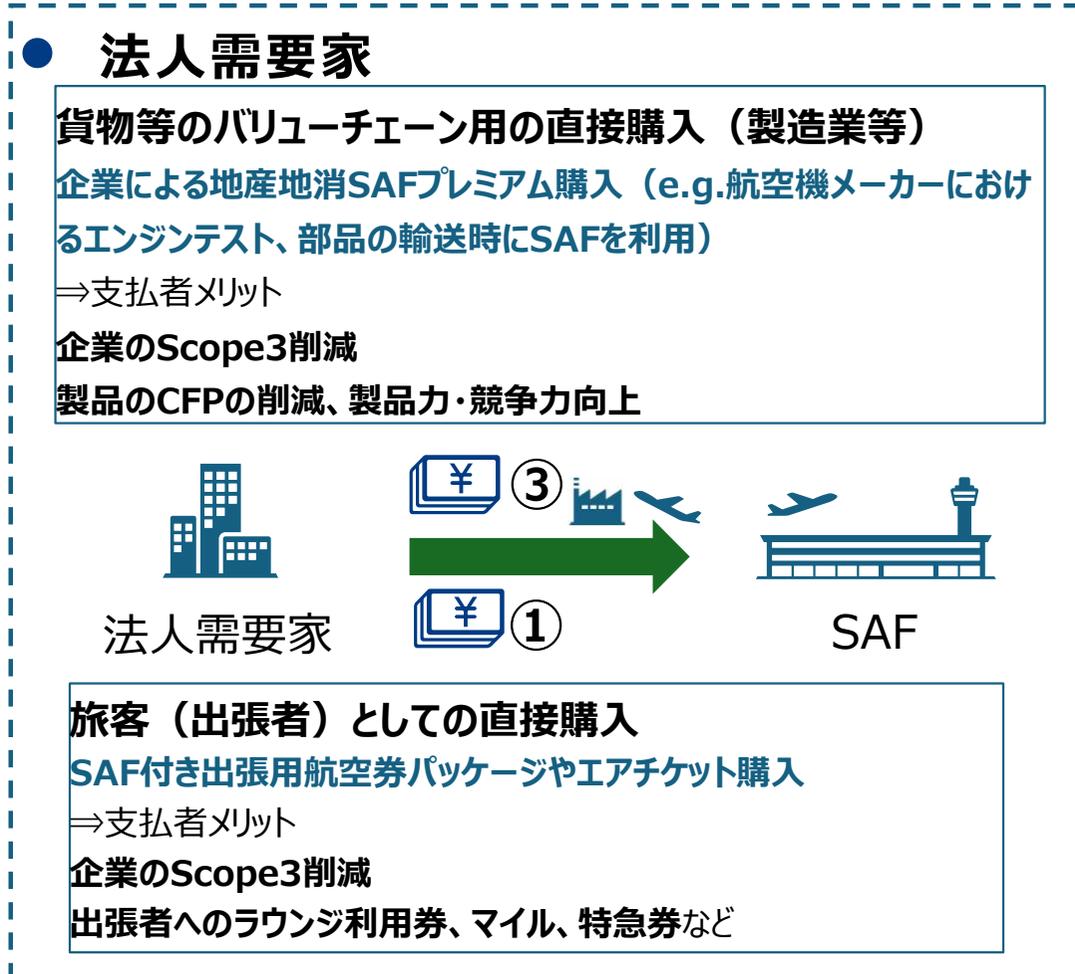
- 本ワーキンググループでは、地産地消SAFのユーザー候補のニーズを検討し、地産地消SAFの価値化に必要な施策についてアイディエーションを行った。
- 提案施策としては、大きく分けて、以下のとおりに整理された。

地産地消SAFの価値化に向けた提案施策の全体像

提案施策	目指す姿の概要	2028年頃に期待する姿
地産地消SAFへの キャッシュフロー創出案 (旅客SAF需要家)	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消SAFを利用した（もしくは環境価値を載せた）航空機に対して、ポイントなどの利用メリットを評価し、旅客者（個人需要家）が航空機を利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消SAF利用者やふるさと納税者に対する還元（SAF利用者への脱炭素エキデン、協議会独自のポイント還元）や特典内容が提供されている。 トレーサビリティにより、還元のためのエビデンスとなる情報がトレースされている。
地産地消SAFへの キャッシュフロー創出案 (貨物SAF需要家)	<ul style="list-style-type: none"> 製造業の製品や部品の輸送において、製品CFPの削減などの価値を意識・評価し、地域の航空・貨物・製造業者が地産地消SAFを利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消SAF法人需要家のファーストムーバーが存在する。 サプライチェーン排出量の削減等の企業の取り組み結果が、地産地消とトレーサビリティにより紐づけされている。
地域経済への波及効果 の見える化・機運醸成	<ul style="list-style-type: none"> 法人・個人需要家が地産地消SAFを利用することでバリューチェーンを構成、地域経済圏を創出されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 航空・空港産業から、店舗等の地域事業者に至るまでの、地産地消SAFによる地域経済への波及効果が把握されている。 地産地消SAFを率先利用しようとする機運が存在する。

論点①-2 地産地消SAFの価値化（地産地消SAF価値化キャッシュフローの創出）

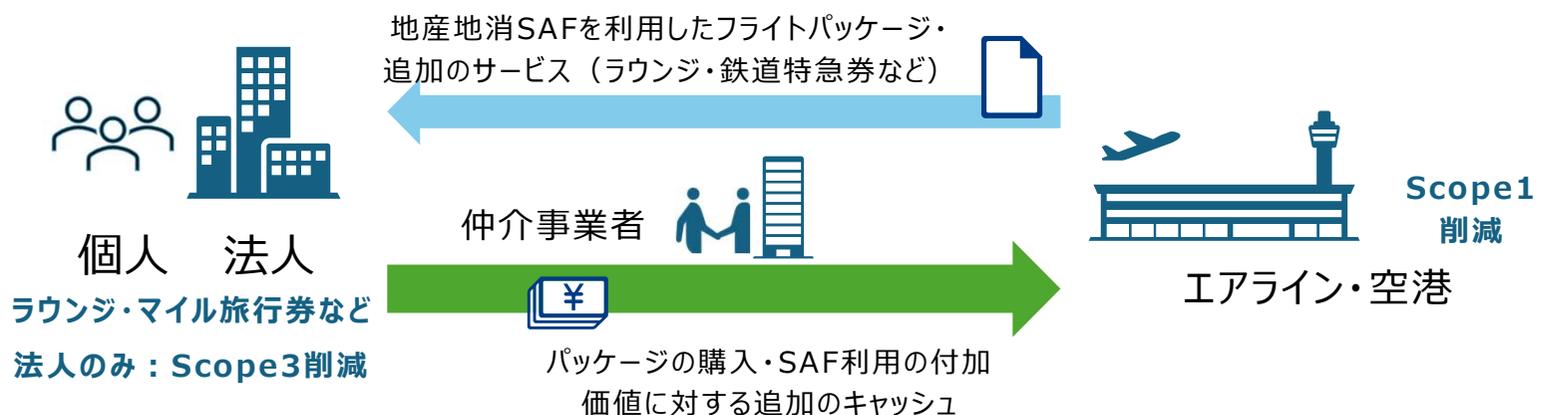
- 地産地消SAF価値化キャッシュフローの創出策として、ユーザー候補である個人需要家、法人需要家を想定し、キャッシュフロー創出案を整理した。
- 具体的には、地産地消SAFへの支払いルートを、個人需要家、法人需要家に分け以下のとおりに図示、関係する協議会メンバーへヒアリング調整し、実現可能性、連携可能性について検討を行った。



論点①-2 地産地消SAFの価値化（地産地消SAF価値化キャッシュフローの創出）

- 旅客SAF需要家向けのキャッシュフロー創出案は、下図のとおりと考えられた。地産地消SAF利用者やふるさと納税者に対する還元や特典内容等のインセンティブを設けるアプローチが考えられる。
 - 例としてグリーンツーリズムや出張パッケージを活用できるようにし、**旅客としての直接的な地産地消SAFの利用**を喚起。
 - **地産地消SAFを利用したフライトの旅行・出張パッケージ**や**地産地消SAF利用を促進するプログラム**への組み込みを検討。

旅客SAF需要家（個人・法人出張）を想定した地産地消SAF向けキャッシュフローの創出のイメージ



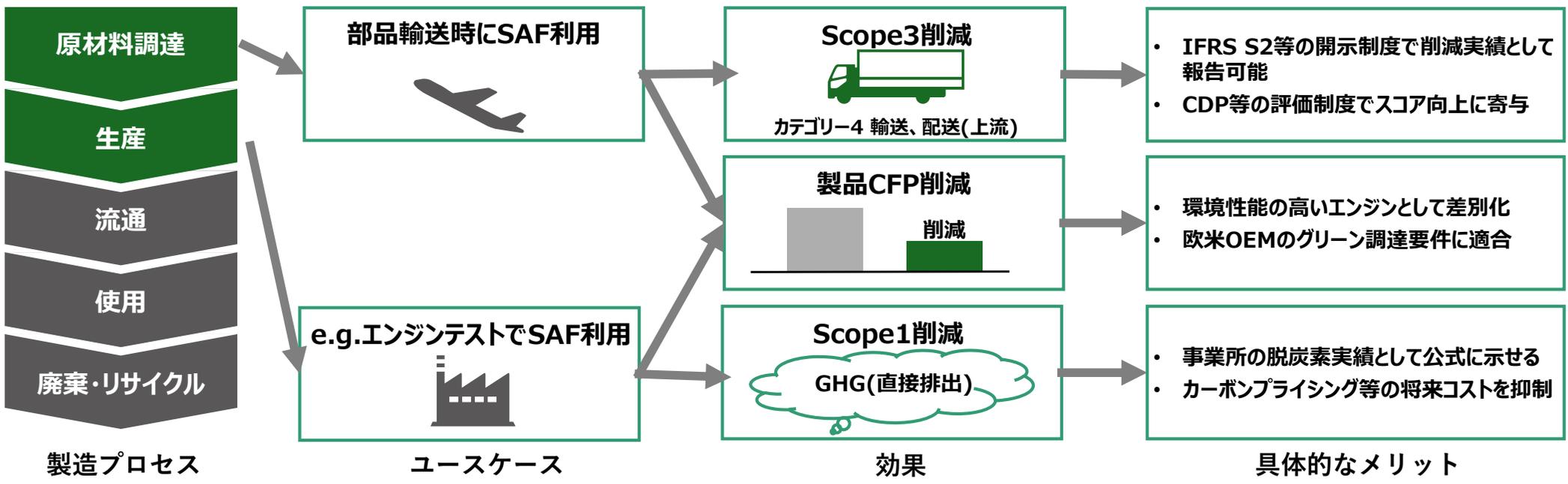
■ 協議会メンバーへのヒアリング状況

施策案	キャッシュフロー	課題・方針等
地産地消SAFを乗客（個人）が購入できるメニュー（プログラム）	乗客（個人）⇒エアライン⇒SAF	➢ 地産地消SAFのトレーサビリティ情報の顧客向け提供や、システム対応面でのハードルが想定される。
地産地消SAFをScope3削減価値と一緒に方針が購入できるメニュー（プログラム）	企業⇒エアライン⇒SAF	
上記に対しラウンジ、鉄道特急券をエアラインから還元	乗客（個人/企業）⇒エアライン⇒SAF エアライン⇒ラウンジ利用など	➢ 還元の実現に当たっては追加費用の拠出が必要である。
地産地消SAFを含めた、ふるさと納税返礼品パッケージ	納税者⇒（市町村）⇒旅行代理店⇒SAF	➢ ふるさと納税では旅行パッケージの返礼品を提供する例がある（SAF利用が実現すれば新規の取組み）

論点①-2 地産地消SAFの価値化（地産地消SAF価値化キャッシュフローの創出）

- 貨物SAF需要家向けのキャッシュフロー創出案は、下図のとおりと考えられた。サプライチェーン排出量削減における地産地消SAF利用の意義付け、メリットの明確化を行い、利用促進の呼び掛けを図ることが考えられる。
 - 利用促進の呼び掛けの例としては、削減ニーズのあるアリーアダプターとして協議会メンバー等の率先企業に呼び掛けること、県内の既存SAF利用企業に対する地産地消SAF価値のPRを進めることが考えられる。

貨物SAF需要家を想定した地産地消SAF向けキャッシュフローの創出のイメージ



■ 協議会メンバーへのヒアリング状況

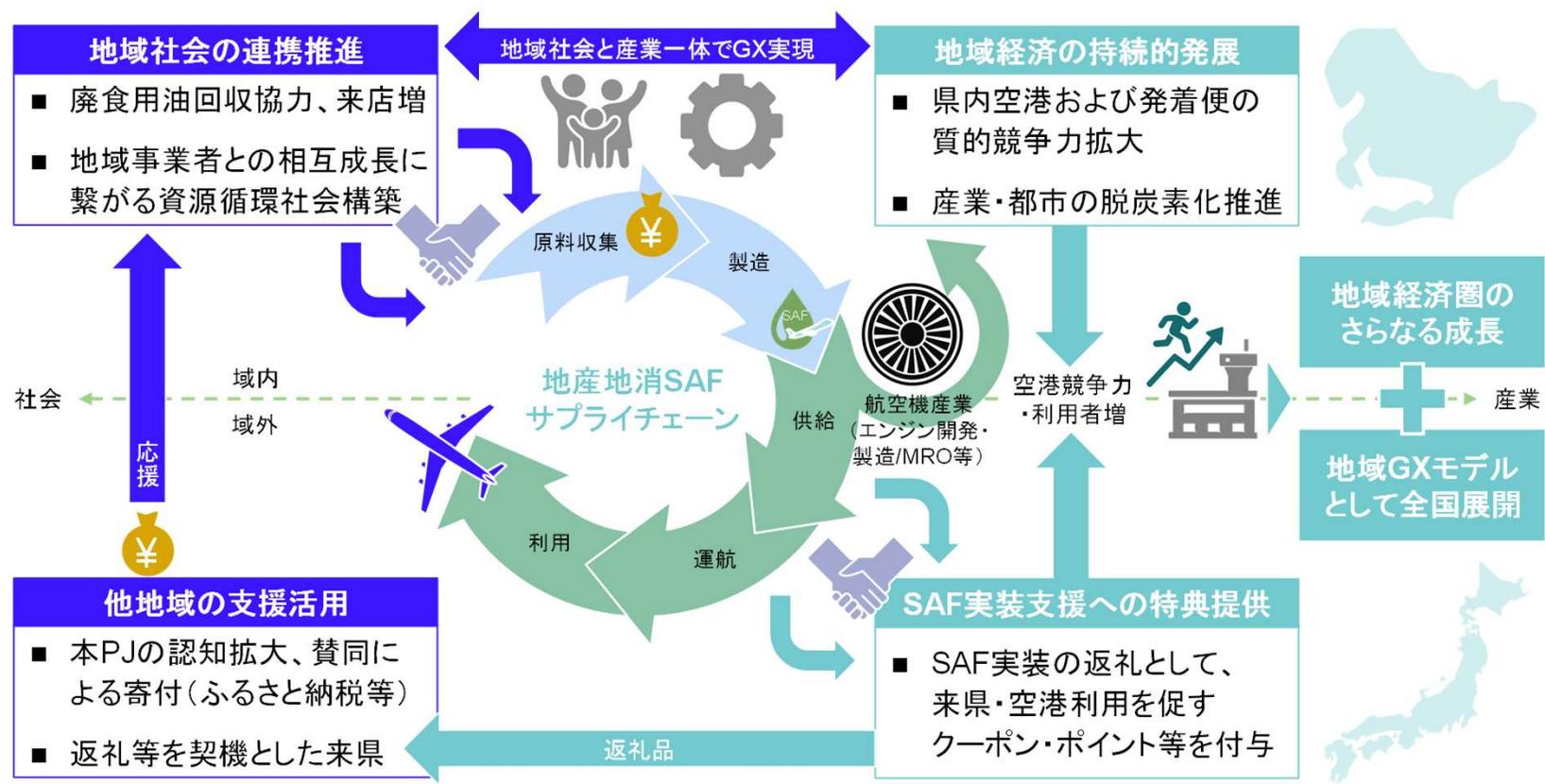
施策案	キャッシュフロー	課題・方針等
地産地消SAFを購入し、自社のScope1を直接削減	<ul style="list-style-type: none"> 航空機エンジンメーカー（エンジンテストセル）⇒SAF 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ Scope1の直接削減効果が大きく、県外の事例においても活用事例がみられる。
部品輸送への地産地消SAF利用の適用	<ul style="list-style-type: none"> メーカー⇒エアライン⇒SAF 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 航空輸送を伴うサプライチェーン排出は多くはない可能性。
輸送機器メーカーとしての顧客向け脱炭素メニュー創出（HVO）	<ul style="list-style-type: none"> 輸送機器需要家⇒輸送機器メーカー⇒HVO 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ SAFとの連産品としての需要創出がSAFに与えるメリットの整理が必要。

論点①-2 地産地消SAFの価値化（地域経済への波及効果の見える化・機運醸成）

- 本ワーキンググループでは、**地産地消SAFサプライチェーンによる波及効果のイメージ**を以下のとおりに描出。
- 今後は**波及効果の更なる見える化**を進めるとともに、**市町村や県内企業との共有を図っていく**。

地産地消SAFサプライチェーン構築に向けた内外連携と波及効果のイメージ

- ✓ 地産地消SAFサプライチェーン構築に向けて、**域内・域外の関係者が連携し、SAF実装および経済効果等を実感できるモデルを構築することは、愛知県を起点とした日本のGX対応の高度化に繋がる**
- ✓ **ふるさと納税等を活用した他地域からの財源確保により、県内空港を起点とした国内外への輸送ネットワークや、航空機を含む愛知県の主要産業等の脱炭素化を推進し、全国にも波及する地域経済圏の創出を目指すことが可能に**

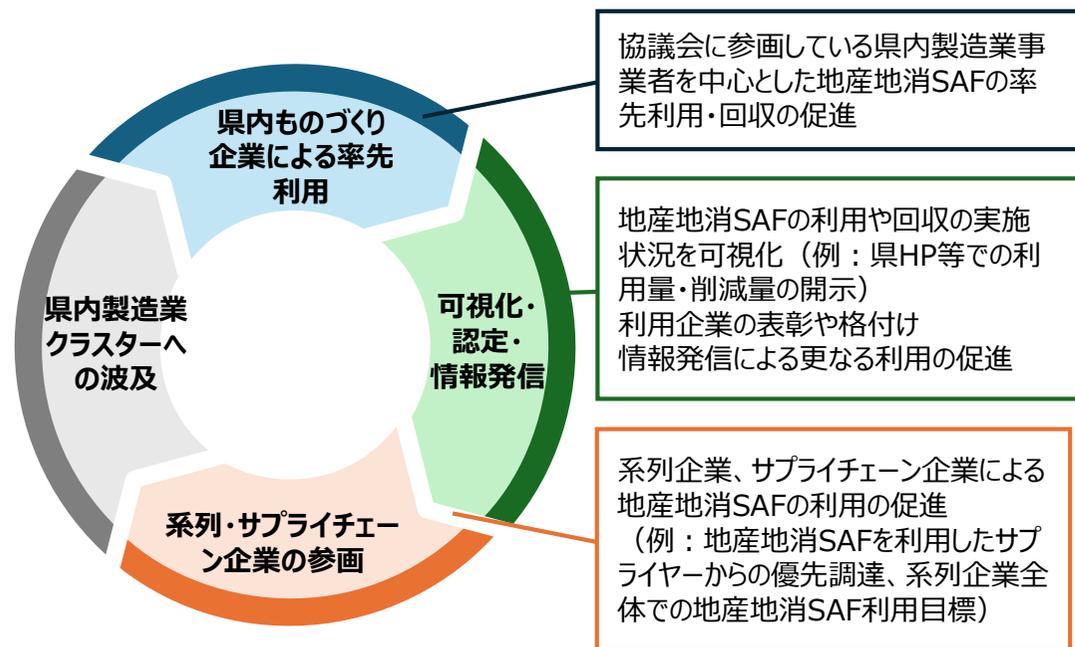


(出所) みずほ銀行産業調査部作成

論点①-2 地産地消SAFの価値化（地域経済への波及効果の見える化・機運醸成）

- 地産地消SAFサプライチェーンによる波及の解像度を高めることで、**地産地消SAFの利用を訴求する（キャッシュフローを創出する）機運醸成**にもつながると考えられる。
- 具体的には、法人、個人を問わず、**地産地消SAFを利用することが様々な観点、場面で価値のあることと認知され、評価されていく**ことで、利用を前向きに捉える機運が生まれることが期待される。
 - ✓ 特に、**愛知県は「ものづくり企業」の集積地域としての特性**を有することから、地産地消SAFを率先して利用した企業を適切に評価し、その取組を的確に情報発信することで、**当該企業を起点に県内の系列企業・サプライチェーン企業へ地産地消SAF利用が波及**することも期待される。
- 率先して利用する企業に向けた**行政による呼び掛けも有効**と考えられる。これらの活動は、原材料回収スキーム構築WGにおける、普及啓発およびSAFの認知向上施策の実施と連動して進めるものとする。

地産地消SAFに係る機運醸成のイメージ（ものづくり企業の例）



行政による地産地消SAF取組みの呼び掛け

（写真は今年度取組みのイメージ）



【地産地消SAF価値化のための施策のアイディエーション】

- 地産地消SAFのユーザー候補のニーズを検討し、地産地消SAFの価値化に必要な施策についてアイディエーションを行った結果、提案施策として、「キャッシュフロー創出策」と、「地域経済への波及効果の見える化・機運醸成」が得られた。
- 「キャッシュフロー創出策」については、旅客と貨物に分けた施策案を整理し、ヒアリングによって課題を把握し、施策の方向性について整理した。
- 「地域経済への波及効果の見える化・機運醸成」については、地産地消SAFサプライチェーンによる波及効果のイメージを描出するとともに、SAFの利用に向けた機運醸成に取り組むことが重要であることを確認した。

【今後の取組み事項】

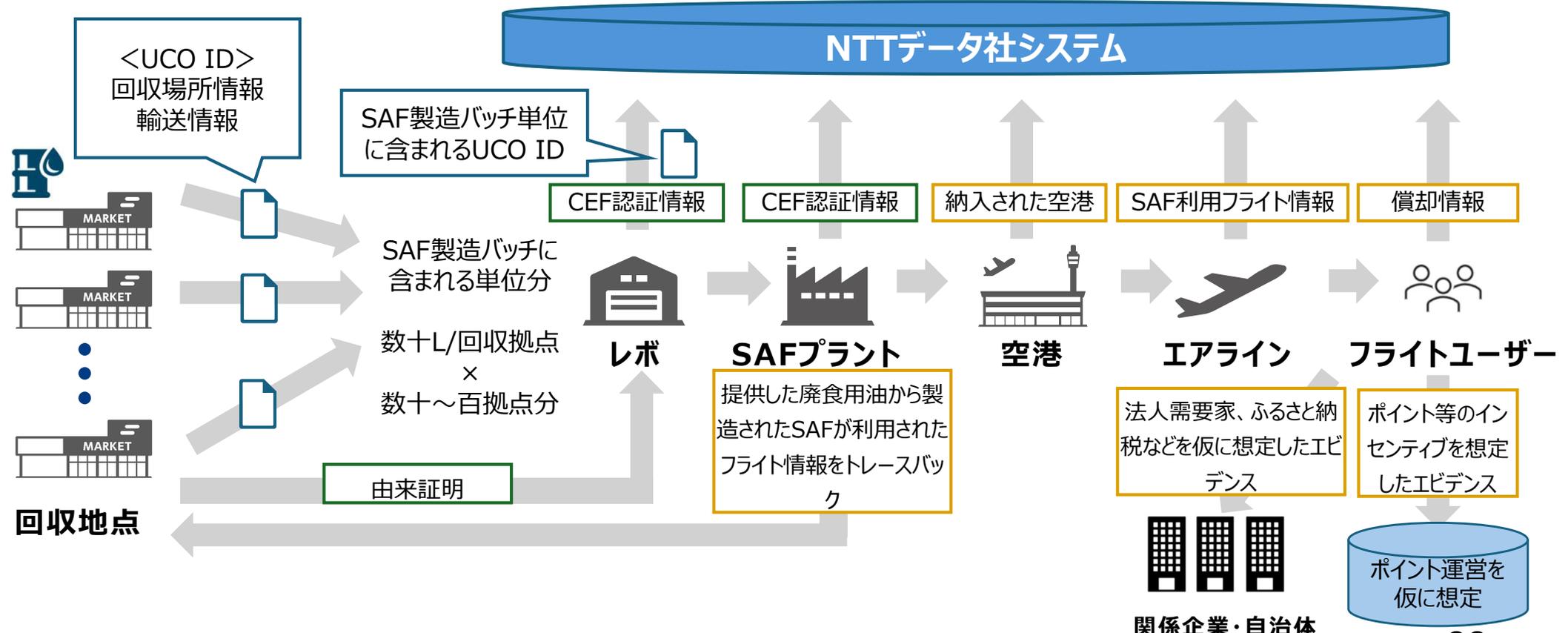
- 地産地消SAFのキャッシュフロー創出のための関係者への働きかけを実施していく。
- 地産地消SAFの更なる見える化を進め、市町村や県内企業との共有を図っていくとともに、SAFの率先利用に向けた機運醸成に取り組む。

論点② トレーサビリティシステムの設計

論点② トレーサビリティシステムの設計

■ 地産地消SAFのトレーサビリティシステムの実現に向けて、前述の地産地消SAFの定義に基づきトレースすべき情報を想定し、システムの実証計画を整理した。

- CEF認証はSAF製造バッチ単位で付与されるが、廃食用油の回収単位は拠点あたり数十L程度であるため、レボインターナショナル（及び回収事業者）がUCO（廃食用油）IDをNTTデータ社システムに入力・管理
- 川上から川下へのトレーサビリティの検証に加え、提供した廃食用油から製造されたSAFが最終的に利用されたフライト情報を廃食用油提供者にトレースバックする仕組みを検証
- フライトユーザーへ提供するエビデンスを作成（法人需要家、ふるさと納税、ポイント等のインセンティブを仮に想定）



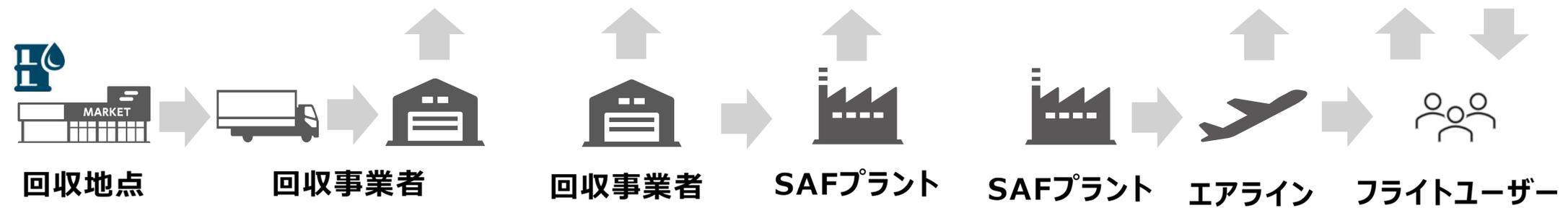
論点② トレーサビリティシステムの設計

- 地産地消SAFのトレーサビリティシステムにおいて、トレースする情報としては以下を想定している。
 - 地産地消情報 : 地産地消ラベル (回収場所、輸送距離、輸送手段によって判断)
 - 由来証明情報 : 回収日時、拠点、数量
 - サプライチェーン情報 : UCO ID (回収者)、SAF ID (製造者)、サービスID (エアライン)、利用者ID (ユーザー)
- 上記の情報のトレーサビリティについて、来年度の実証計画に盛り込むものとする。

UCO ID	拠点	量	地産ラベル	SAF ID	サービス ID	利用者 ID
UCO-A	A店	2 kL	○			
UCO-B	B店	3 kL	○			
UCO-C	C店	5 kL	-			

UCO ID	拠点	量	地産ラベル	SAF ID	サービス ID	利用者 ID
UCO-A	A店	2 kL	○	HEFA-A		
UCO-B	B店	3 kL	○	HEFA-A		
UCO-C	C店	5 kL	-	HEFA-A		

UCO ID	拠点	量	地産ラベル	SAF ID	サービス ID	利用者 ID
UCO-A	A店	2 kL	○	HEFA-A	Flight-A	User-A
UCO-B	B店	3 kL	○	HEFA-A	Flight-A	User-A
UCO-C	C店	5 kL	-	HEFA-A	Flight-A	User-A



- 回収事業者が回収地点から廃食用油を回収し、回収地点情報、輸送に関する情報を回収業者に伝達する。
- レポインターナショナルが回収事業者から伝達された廃食用油情報を管理用データに入力する。
- 地産廃食用油を含むSAF製造単位分の廃食用油をSAFプラントに輸送する。
- CEF認証はSAF製造単位で付与されるため、地産廃食用油に紐づくSAF製造単位を管理用データに入力し、地産地消認証とCEF認証を対応付ける。
- エアラインは地産廃食用油を含むSAFをどのフライトで使用したかを入力する。
- フライトユーザーに対するエビデンスの提示を行う。
- 更には、トレースバックとして、回収地点の回収協力者へのSAF利用実績の伝達も行う。

【参考】CORSlA適格持続可能性認証スキームとの関係

- CORSlA適格持続可能性認証とは、国際航空部門の排出削減を義務付ける制度であるCORSlAにおいて、環境価値があると認められるSAFであることを証明するためのスキーム（日本国内のClassNK SCSを含め3種類）。
- これらのスキームでは、持続可能性宣言書（Sustainability Declaration）と呼ばれるトレーサビリティを運用。地産地消SAFのトレーサビリティは、現在課題となっている「廃食用油の偽装」に対する対策ともなると考えられ、適宜、連携を図っていくものとしたい。

CORSlA適格持続可能性認証



原則 1	適法性
原則 2	計画策定、モニタリング
原則 3	温室効果ガス排出
原則 4	人権及び労働権
原則 5	農村及び社会開発
原則 6	地方の食料安全保障
原則 7	生態系保全
原則 8	土壌
原則 9	水
原則 10	大気質
原則 11	技術利用、投入、廃棄物管理
原則 12	土地への権利



原則 1	生物多様性価値の高い土地もしくは炭素ストックの高い土地の保全
原則 2	土壌、水、大気を保護するための環境配慮
原則 3	安全な労働条件
原則 4	人権、労働、土地への権利
原則 5	法および国際条約の遵守
原則 6	適正管理基準および継続的改善



原則 1	GHG
原則 2	炭素ストック
原則 3	GHG 排出削減の永続性
原則 4	水
原則 5	土壌
原則 6	大気
原則 7	生態系保全
原則 8	廃棄物及び化学物質
原則 9	地震及び振動の影響
原則 10	人権及び労働者権利
原則 11	土地利用及び土地への権利
原則 12	水利用の権利
原則 13	地域及び社会開発
原則 14	食料安全保障

出所) RSB、ISCC、ClassNK SCS 各種文書より作成

- CORSlA適格持続可能性認証スキームは現在、左記の3種類。
- CORSlAが求める持続可能性基準があり、共通事項もあるが、細かい運用面でスキームごとに異なる。

持続可能性認証スキームの運用例（ClassNK SCS）

SCS認証スキームの概要



- CORSlA適格認証では原料収集者から混合事業者まで認証をつなぐ（CoC：Chain of Custody）によって持続可能性宣言書（Sustainability Declaration）を活用
- 各サプライチェーン間で文書にて情報伝達（原料の栽培/発生国、量、ライフサイクルGHG等を記載）

出所1) <https://www.mlit.go.jp/koku/pdf/04.pdf>
 出所2) https://www.classnk.or.jp/hp/ja/hp_pressrelease.aspx?id=13962&layout=1

今後の取り組みについて

地産地消SAFの定義（論点①-1）

- **今年度の整理**：地産地消SAFの定義の候補を検討した。トレースする情報については発生地点/製造地点/利用地点や燃費を把握することを想定した。
- **今後の取り組み**：地産地消の定義について、今後のトレーサビリティの実証や国の動向などを踏まえ、更に検討していく。

地産地消SAFの価値化（論点①-2）

- **今年度の整理**：地産地消SAFの価値創出として、キャッシュフロー創出策の案を提案するとともに、地域経済への波及効果の見える化・機運醸成を進める方向性を示した。
- **今後の取り組み**：
 - ✓ キャッシュフロー創出策：関連するプレイヤーとの連携、働きかけを進め、提供メニューの実現可能性を追求していく。
 - ✓ 波及効果の見える化・機運醸成：波及効果の発信、機運醸成に向けた活動を推進。

トレーサビリティシステムの設計（論点②）

- **今年度の整理**：地産地消SAFのトレーサビリティシステムの実現に向け、地産地消SAFの定義に基づきトレースすべき情報を想定した実証計画を整理した。
- **今後の取り組み**：実証を進め、地産地消SAFの定義へのフィードバックや、価値化の施策との紐付けを検討。CORSAIA持続可能性認証との相互メリットも図っていく。